

2023年5月10日

第10回エクセレントNPO大賞 「チャレンジ賞」講評

1. チャレンジ賞と審査の視点

第10回エクセレントNPO大賞では、通常の部門賞に加え、初めて応募される団体などを対象とする「チャレンジ賞」が設けられました。いわば、部門賞への「登竜門」にあたります。

第8回、第9回エクセレントNPO大賞で、新型コロナウイルス禍の厳しい状況の中、常に前を向いて活動続けるNPOに「コロナ対応チャレンジ賞」が贈られました。「チャレンジ賞」は、より広い視点から、精力的な取り組みを応援するものです。

評価の基準はエクセレントNPO基準をベースとしつつ、通常の部門賞の15項目から、8項目に絞り込みました。

参加するボランティアの役割を内外に分かりやすく伝えているか、寄付者に対して活動報告などの情報を適時・適切に提供しているか、など市民性の観点から評価しました。また、社会課題やニーズをきちんと把握しているか、支援対象者らの状態改善など具体的な「アウトカム目標」を定めて取り組んでいるか、などの点も審査しました。

2. 審査結果

29件の応募中21件は初めて応募される団体・個人でした。チャレンジ賞の趣旨がNPOの皆さんに広く理解されていることがうかがえます。

風俗店で働く女性向け相談窓口を提供する特定非営利活動法人「風テラス」(新潟県)、高齢者の見守りなどを続ける特定非営利活動法人「ソンリッサ」(群馬県)、摂食障害の当事者や家族への支援と予防啓発を進める「摂食障害よりみち」(愛知県)、飲食店による子ども食堂支援事業「フードリボンプロジェクト」を全国展開する一般社団法人「ロングスプーン協会」(千葉県)、放課後児童クラブによる子育て支援などに取り組む認定NPO法人「地域家族しんちゃんハウス」(神奈川県)などが高い評価を得ました。

審査会で協議の結果、チャレンジ賞は「ソンリッサ」に決定いたしました。

「ソンリッサ」は「ひとりで抱えずに優しいつながりがあふれる社会をつくる」をビジョンに2017年5月に設立され、生きがいや社会との接点作りによって「高齢者の

孤立・孤独を笑顔に変える」ことを目指している団体です。

代表の萩原涼平さんが高校生時代、祖父をなくされた祖母の姿を目にされたことが、高齢者向け支援事業を思い立ったきっかけだということです。

特筆されるのは、独居高齢者向けの見守りサービス「Tayory」を開発し、2021年3月からサービスを提供している点です。孫世代の若いケアスタッフ「まごマネジャー」が高齢者に寄り添うという世代を越えた取り組みが注目されます。

コロナ禍でも浮き彫りになった高齢者の引きこもりに焦点をあて、社会参加や発話量の6割増という具体的なアウトカム目標を設定していることなどが高く評価されました。ボランティア参加者や、活動賛同者からの寄付を増やすため、情報発信などで工夫が必要だと自覚されている点は、今後のさらなる発展を期待させます。

3. 今後への期待

「炭坑のカナリア」という言葉があります。差し迫る危険をまっさきに周囲に知らせるセンサーという意味で使われます。

コロナ禍によって、高齢者や子ども、非正規雇用の労働者など、手を差しのべなければならぬ存在が浮き彫りになりました。

チャレンジ賞を受賞した「ソシリッサ」をはじめ、応募された団体には、そうした人々を支援する取り組みが多かったように見受けられます。

コロナの影響は落ち着く兆しを見せ始めていますが、支援を必要とする人々がいることに変わりはありません。今後も、より良い社会の実現のために、息の長い活動を続けてください。